

捕獲等事業評価シート【ニホンジカ】
(令和7年度) 様式

(愛知県 環境局環境政策部自然環境課)

基本評価シート（ニホンジカ）

■ 事業概要

事業実施地域	設楽・稲武地区
事業主体	愛知県環境局環境政策部自然環境課
事業実施期間	令和7年7月7日～令和8年2月27日
捕獲手法	わな猟（くくりわな）、銃猟（誘引狙撃、夜間銃猟）
事業メニュー	②捕獲等メニュー（高密度地域）
事業費	13,380,510円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	300頭	わな猟：11頭 銃 猟：180頭 〔誘引狙撃：168頭〕 〔夜間銃猟：12頭〕 合計：191頭	捕獲目標の達成率は64%で、目標が達成できなかったが、捕獲方法の見直しや工夫等により令和6年度の41%より向上した。
捕獲作業量	<わな猟> くくりわな 504基日 <銃 猟> 誘引狙撃 290人日 夜間銃猟 40人日	<わな猟> くくりわな 1,180基日 <銃 猟> 誘引狙撃 396人日 夜間銃猟 40人日	当初の計画以上の作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	【令和6年度実績】 <わな猟> くくりわな 約0.0032頭/基日 <銃 猟> 誘引狙撃 約0.39頭/人日 夜間銃猟 約0.21頭/人日	<わな猟> くくりわな 約0.0093頭/基日 <銃 猟> 誘引狙撃 約0.42頭/人日 夜間銃猟 約0.30頭/人日	すべての捕獲手法で令和6年度より捕獲効率が高かった。効率的な捕獲のため、くくりわなについては短いタームで設置場所を移動させる手法を採用し、夜間銃猟については、出動時のニホンジカとの遭遇確率を上げるため、現地に設置した自動撮影カメラを活用し、出没时间を確認したうえで出動するよう工夫した。
事業に要した人員数	わな猟：86人日 銃 猟：330人日 合 計：416人日	わな猟：208人日 銃 猟：436人日 合 計：644人日	予定より多くの人員数を投じて作業を実施した。従事者1人当たりの捕獲数は約0.298頭であった。
安全管理体制	業務実施計画に記載したとおり。	提出した計画に沿って作業を行った。事故は発生しなかった。	予定通りの計画で安全に事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	利活用等で計画	利活用：191頭	当初の予定通りで処分された。

環境への影響への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 非鉛製銃弾を使用（止め刺しを除く。） 錯誤捕獲情報を収集 	<ul style="list-style-type: none"> 非鉛製銃弾を使用（止め刺しを除く。） 錯誤捕獲情報を収集 	当初の予定通り配慮できた。
捕獲個体の属性	【令和6年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> オス 100 頭 メス 106 頭 メス比：約 51% 	<ul style="list-style-type: none"> オス 77 頭 メス 114 頭 メス比：約 60% 	昨年度よりもメスの割合が増えている。

■添付図面

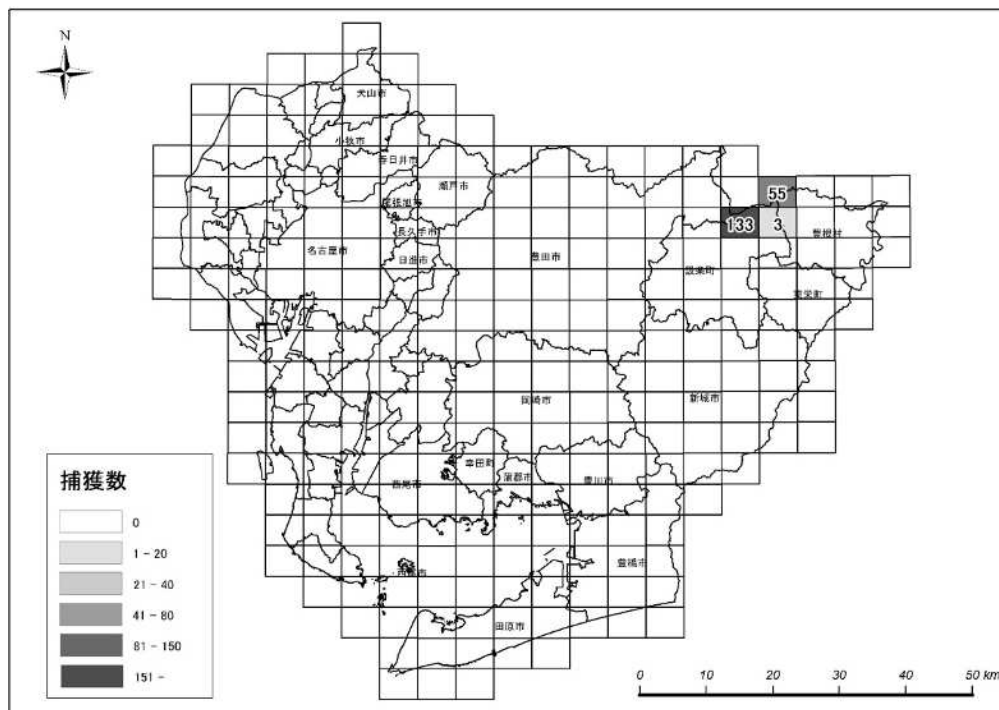


図 1 - 1 令和7年度捕獲位置図【設楽・稲武地区】

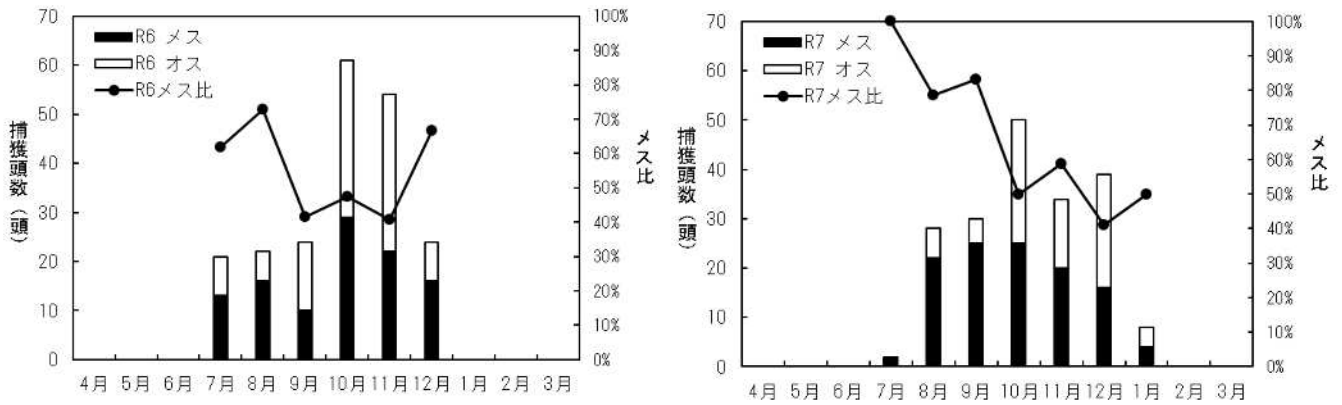


図1-2 月ごとの捕獲数及びメス比（左：令和6年度、右：令和7年度）【設楽・稲武地区】

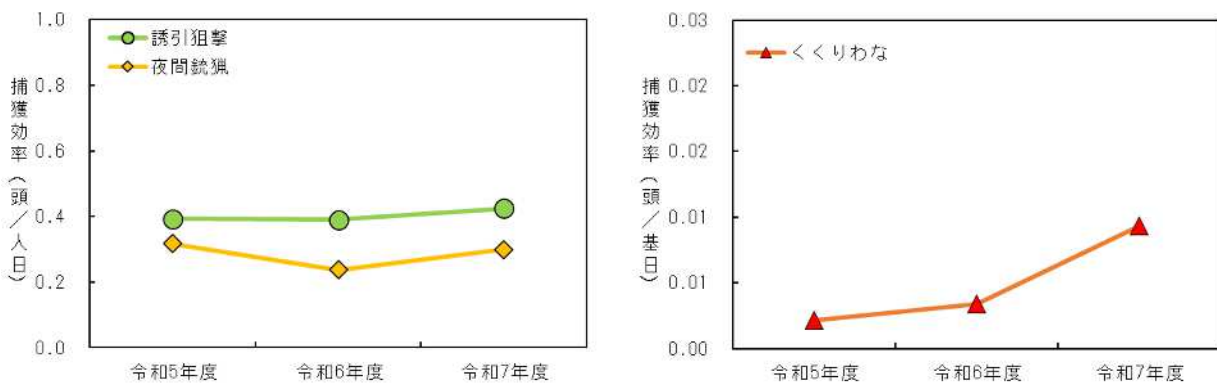


図1-3 直近3年度の捕獲効率の推移（左：銃猟、右：わな猟）【設楽・稲武地区】

■ 事業実施地域

設楽・稲武地区

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	<ul style="list-style-type: none"> センサーカメラ調査による撮影頻度（8月～9月） 約0.31回/日（オス：約0.13回/日、メス：約0.18回/日）※ 推定生息密度（令和7年度推定）：約13.8～32.9頭/km²（令和6年度） （約14.9～24.5頭/km²（令和5年度））
事業実施後もしくは事業終盤・後半	<ul style="list-style-type: none"> センサーカメラ調査による撮影頻度（12月～1月） 約0.42回/日（オス：約0.19回/日、メス：約0.33回/日）※
評価	<ul style="list-style-type: none"> センサーカメラ調査は令和7年度から実施しており、令和6年度のデータと比較できなかったため、事業前半と事業終盤で比較した。結果、後者の方が撮影頻度は上昇しており、捕獲効果を上回るほど対象地域への季節的なシカの移動・流入が生じている可能性が示唆された。 捕獲実施地域を含む4つの5kmメッシュのうち、2メッシュは推定生息密度が令和5年度と比べ令和6年度は減少している。

※雌雄のデータのみを対象に算出

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	・農業被害額（豊田市・設楽町）：20,565千円（令和6年度） （22,768千円（直近3年度平均））
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・農業被害額（豊田市・設楽町）：令和8年度に集計
評価	事業実施市町村（事業実施地域以外の地域も含む）の農業被害額は直近3年度平均値より令和6年度は減少している。 事業実施区域周辺の被害動向は横ばいである。

■ 添付図面

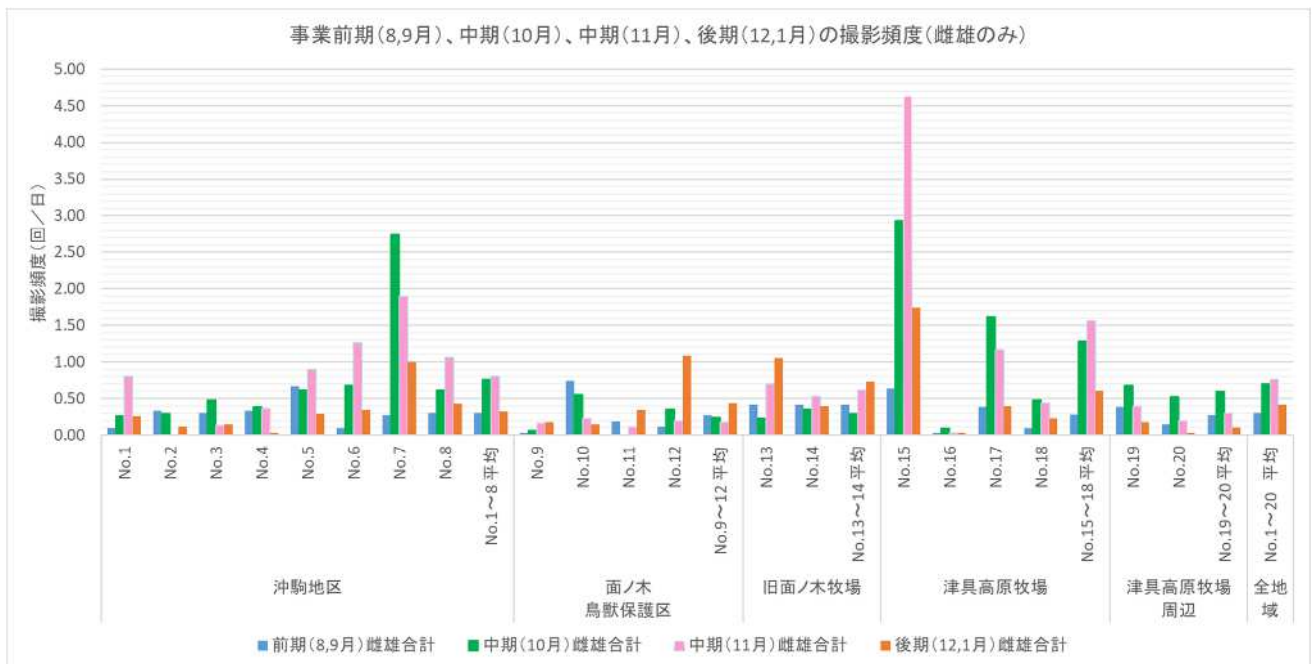


図1-4 事業前期(8,9月)、中期(10月)、中期(11月)、後期(12,1月)の撮影頻度(回/日)

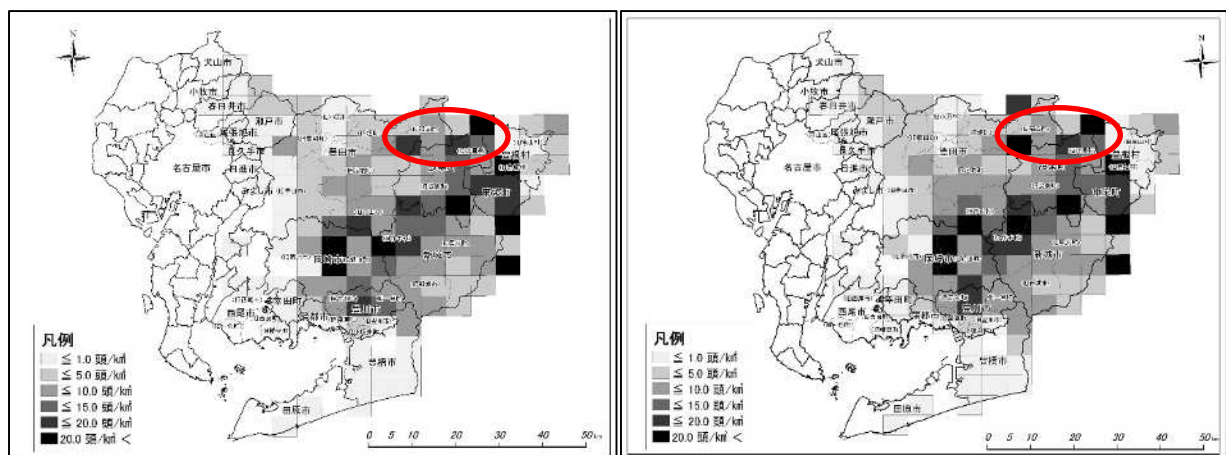


図1-5 推定生息密度(左:令和5年度、右:令和6年度)

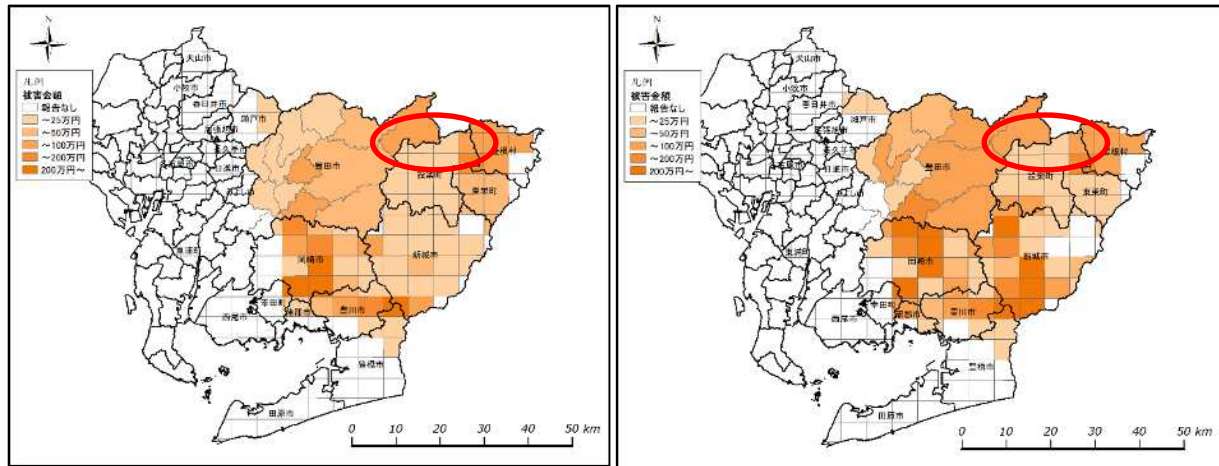


図1-6 農業被害額（左：令和5年度、右：令和6年度）

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点

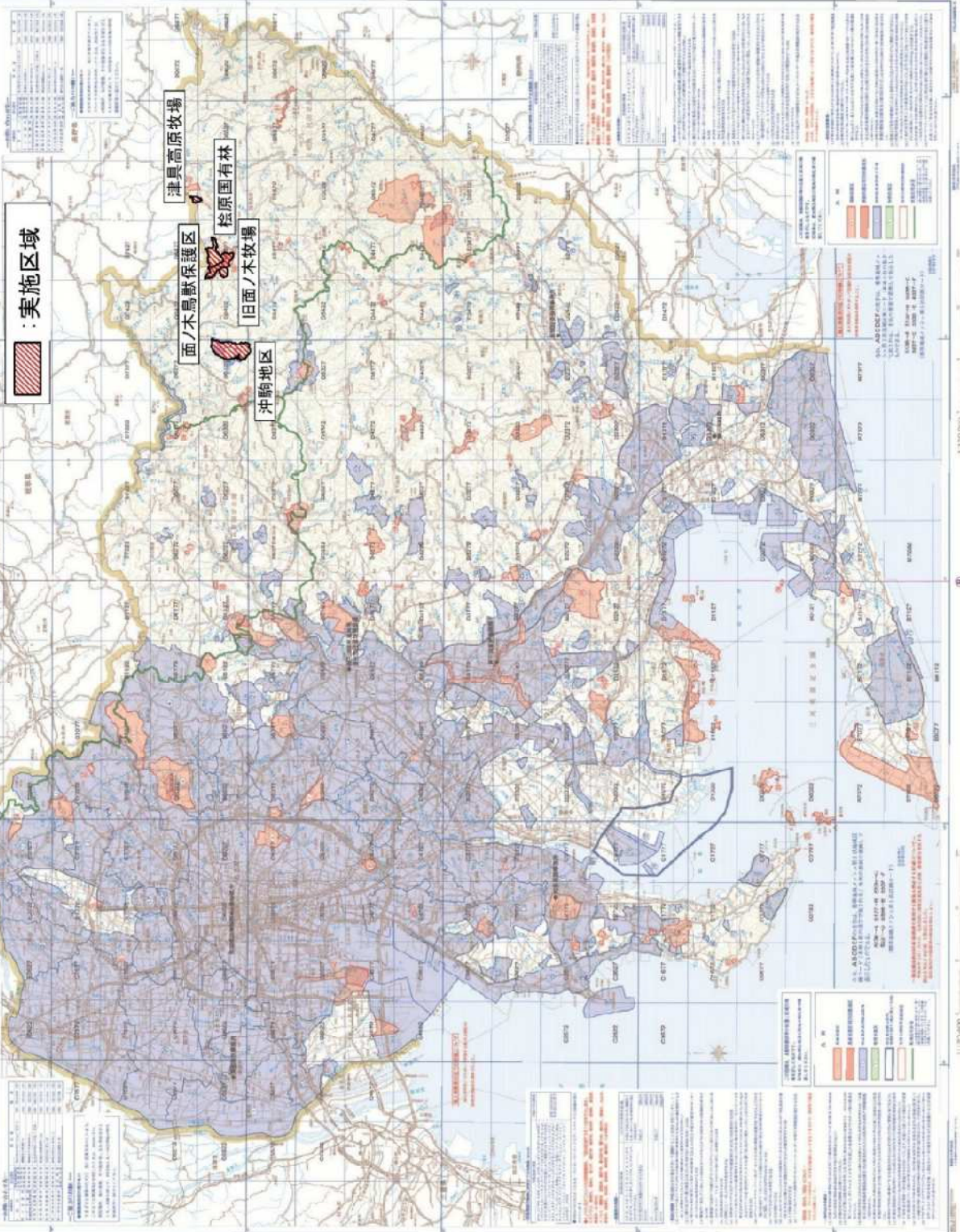
1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	<p>評価：捕獲目標の達成率は64%で、目標が達成できなかったが、捕獲方法の見直しや工夫等により令和6年度の41%より向上した。</p> <p>改善点：より効果的、効率的な捕獲を実施するため、捕獲の時期、場所及び手法等について検討する。</p>
【実施期間】	<p>評価：捕獲作業は、7月～1月の7ヶ月間実施した。</p> <p>改善点：センサーカメラ調査の結果を踏まえ、効率的な捕獲ができるよう検討する。</p>
【実施位置】	<p>評価：これまで捕獲が進んでいなかった鳥獣保護区等のうち、ニホンジカの生息密度の高い地域で捕獲を実施した。令和7年度は実施区域を拡大した。</p> <p>改善点：センサーカメラ調査の結果を踏まえ、効率的な捕獲ができるよう検討する。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：くくりわな、銃猟（夜間銃猟を含む。）のうち、各捕獲場所に適した捕獲方法で実施した。令和6年度より捕獲効率が向上した。</p> <p>改善点：実際の捕獲状況等に応じて、捕獲方法の見直しを行うとともに、夜間銃猟の継続を検討する。</p>
【捕獲コスト】	<p>評価：積算基準に従い、適切な経費を計上し、事業を発注している。</p> <p>改善点：効率的な捕獲事業となるよう、捕獲効率を上げる工夫を検討するとともに、入札結果も踏まえ、適切なコストとなるよう適宜見直しを行う。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：1～2班の体制で捕獲を実施した。</p> <p>改善点：特になし。</p>
【個体処分】	<p>評価：提出した計画に沿って作業を行った。</p> <p>改善点：特になし。</p>
【環境配慮】	<p>評価：非鉛製銃弾を使用（止め刺しを除く。）、錯誤捕獲情報を収集して環境配慮に努めた。</p> <p>改善点：錯誤捕獲防止対策のわなの導入を検討する。</p>
【安全管理】	<p>評価：適切な安全管理がとられており、緊急時の連絡体制も適切に整備されていた。事故の発生もなかった。</p>

	改善点：今年度と同様の安全管理体制を継続する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	特になし。
4. 全体評価	<p>捕獲目標は達成できなかったものの、令和6年度より目標達成率は向上した。</p> <p>令和7年度の捕獲実績やセンサーカメラ調査の結果も踏まえ、捕獲の時期、場所、手法及び体制整備等を見直すことで、さらなる改善が期待できる。</p>

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	<p>○現計画の目標（計画期間：令和4年度～令和8年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推定生息数を1万頭まで減少 ・令和2年度比で、推定生息密度5頭/km²以上のメッシュを3割減少 ・農林業被害の未然防止又は減少 <p>○年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全体で年間6,000頭以上
寄与状況の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第二種特定鳥獣管理計画の生息数の目標達成のため、更なる捕獲強化が必要であり、そのためには、捕獲圧の弱い地域でも捕獲推進が必要である。 ・年間目標で、最低限必要な捕獲数である6,000頭のうち、本事業では191頭の捕獲を実施し、その割合は約3.2%であった。 ・また、令和7年度に拡大した捕獲実施地域を除く3つの5kmメッシュについて、令和7年度の狩猟や有害鳥獣捕獲による捕獲数が令和6年度と同じであると仮定した場合、本事業による捕獲の割合は約6割で、同地域における生息数や農業被害減等に寄与している。 ・引き続き、生息密度が高く、捕獲圧の弱い地域での捕獲を推進することで、ニホンジカの生息数の減少を図る。

令和7年度 愛知県 指定管理鳥獣捕獲等事業 捕獲等実施地域図



■ 事業概要

事業実施地域	三遠地域（新城地区）
事業主体	愛知県環境局環境政策部自然環境課
事業実施期間	令和7年7月7日～令和8年2月16日
捕獲手法	わな猟（くくりわな）
事業メニュー	③広域連携タイプ（静岡県境）
事業費	2,610,850円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	くくりわな：25頭	くくりわな：17頭	目標達成率は約7割であった。目標に届かなかった要因として、今回の捕獲実施地域が、従前捕獲活動が進んでいなかった地域での捕獲であったため、想定していた捕獲努力量が不足していたと考えられる。
捕獲作業量	くくりわな 896基日	くくりわな 928基日	当初の計画以上の作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	<参考>令和6年度実績 （全地域平均）※ くくりわな 約0.0081頭/基日	くくりわな 約0.018頭/基日	令和7年度新規事業。令和6年度に実施した指定管理鳥獣捕獲等事業の全地域平均と比べ、高い効率で捕獲できた。
事業に要した人員数	120人日	181人日	令和7年度新規事業のため、比較対象のデータなし。
安全管理体制	業務実施計画に記載したとおり。	提出した計画に沿って作業を行った。事故は発生しなかった。	予定通りの計画で安全に事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	埋却、焼却、利活用で計画	埋却：9頭 利活用：8頭	当初の予定通りで処分された。
環境への影響への配慮	・非鉛製銃弾の使用を配慮 ・錯誤捕獲情報を収集	・非鉛製銃弾を使用 ・錯誤捕獲情報を収集	当初の予定通り配慮できた。
捕獲個体の属性	<参考>令和6年度実績 （全地域くくりわな実績）※ オス：16頭、メス：31頭 メス比：約67%	オス：6頭、メス：11頭 メス比：約65%	令和7年度新規事業。令和6年度に実施した指定管理鳥獣捕獲等事業の全地域と同程度割合で、メスの捕獲ができた。

※指定管理鳥獣捕獲等事業実績

■ 添付図面

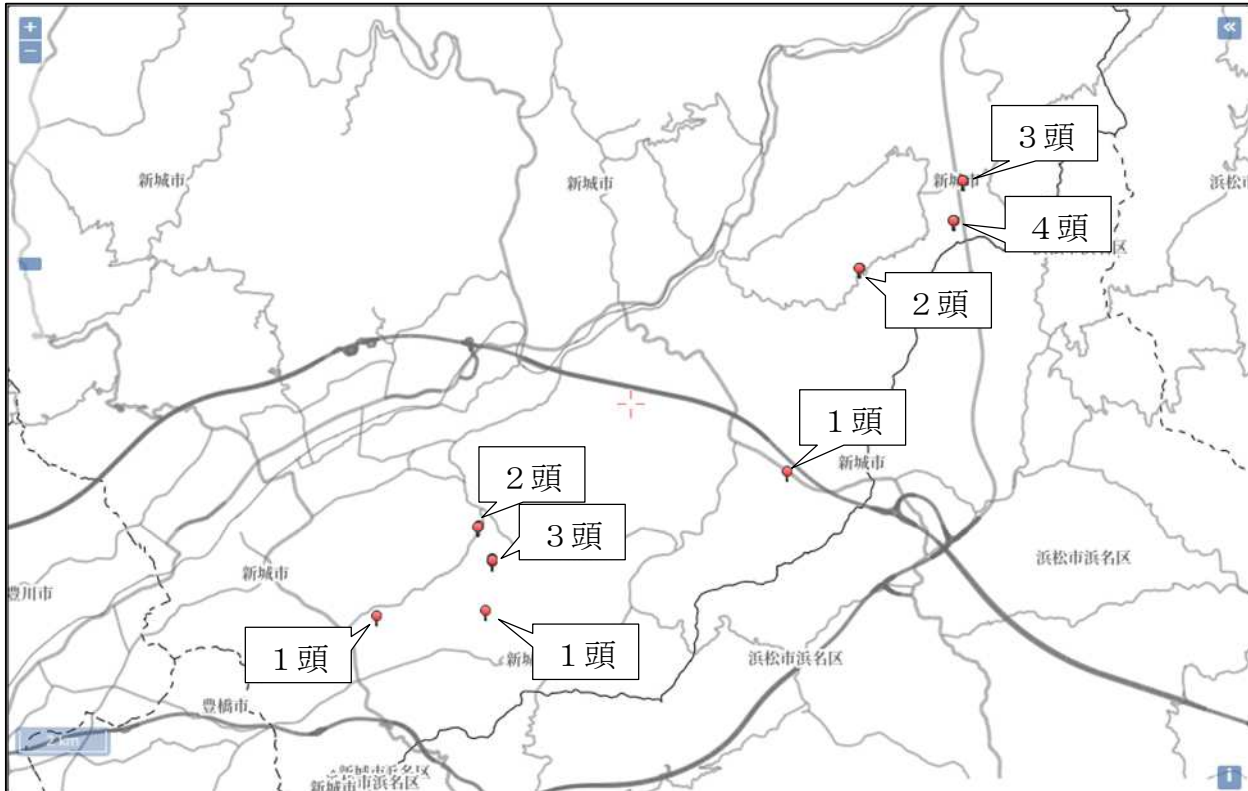


図 2 - 1 令和 7 年度捕獲位置図【三遠地域（新城地区）】

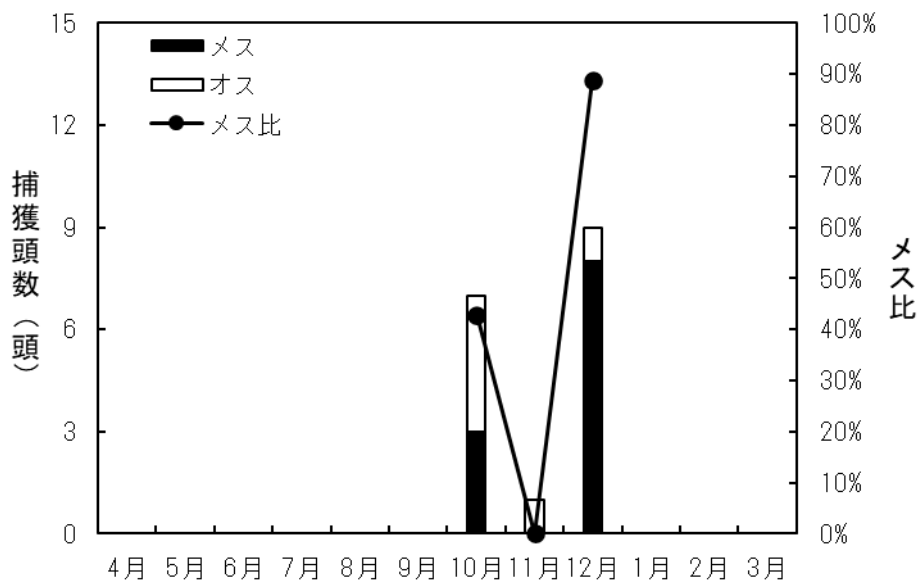


図 2 - 2 月ごとの捕獲数及びメス比【三遠地域（新城地区）】

■ 事業実施地域

三遠地域（新城地区）

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	<ul style="list-style-type: none"> くくりわなの CPUE（捕獲効率） 令和 7 年度新規事業のためデータなし。 推定生息密度が 5 頭/km² 以上のメッシュ数 2 メッシュ / 7 メッシュ（令和 6 年度）
事業実施後もしくは事業終盤・後半	<ul style="list-style-type: none"> くくりわなの CPUE（捕獲効率） 約 0.018 頭 / 基日 推定生息密度が 5 頭/km² 以上のメッシュ数 令和 8 年度に算出
評価	令和 7 年度新規事業であり、事業実施前後の評価指標がないため、次年度評価

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	<ul style="list-style-type: none"> 農業被害額（新城市）：1, 745 千円（令和 6 年度） （2, 808 千円（直近 3 年度平均））
事業実施後もしくは事業終盤・後半	<ul style="list-style-type: none"> 農業被害額（新城市）：令和 8 年度に集計
評価	令和 7 年度新規事業であり、事業実施前後の評価指標がないため、次年度評価

■ 添付図面

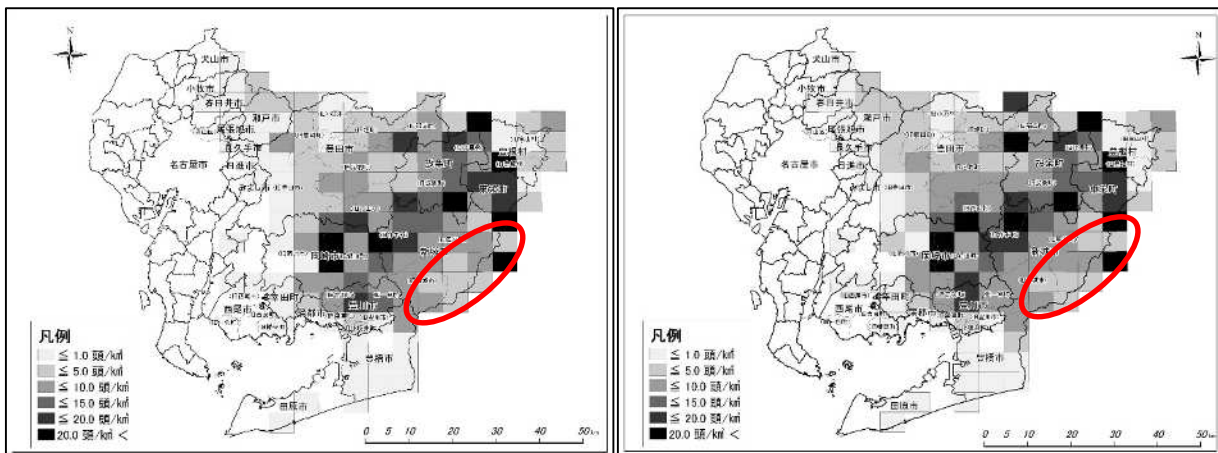


図 2-3 推定生息密度（左：令和 5 年度、右：令和 6 年度）

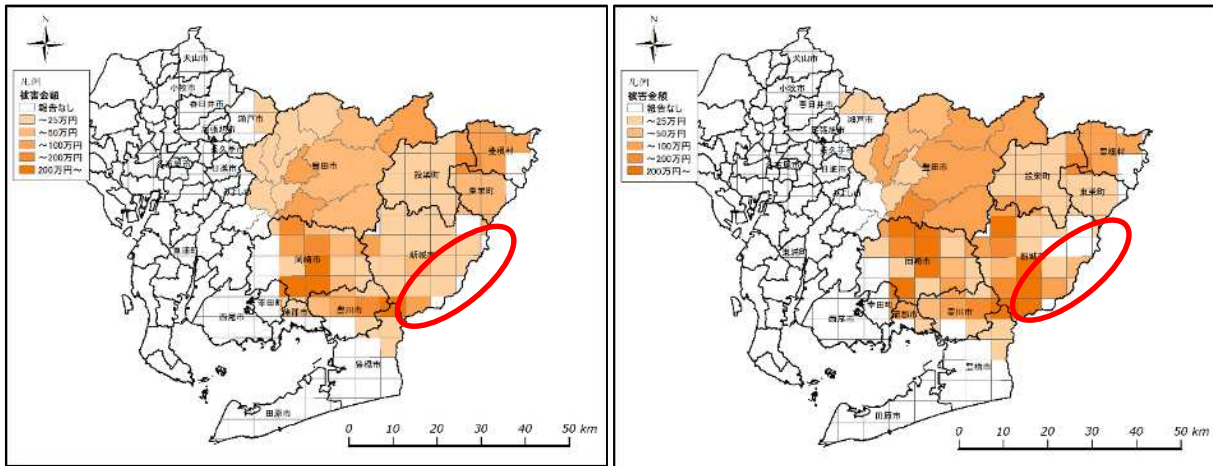


図2-4 農業被害額（左：令和5年度、右：令和6年度）

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	<p>評価：目捕獲目標の達成率は約7割であった。</p> <p>改善点：より効果的、効率的な捕獲を実施するため、捕獲の時期、場所及び手法について検討する。</p>
【実施期間】	<p>評価：捕獲作業は、10月～12月の3ヶ月実施した。</p> <p>改善点：捕獲時期によりメスの捕獲割合に差があったため、効果的な捕獲ができるよう検討する。</p>
【実施位置】	<p>評価：これまで捕獲が進んでいなかった静岡県境付近の地域で捕獲を実施した。</p> <p>改善点：センサーカメラを用いた事前調査や情報収集等をより充実させることを検討する。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：くりわなによる捕獲を実施。捕獲効率向上のため、わな設置前の事前誘引を行うとともに、一定期間ごとにわなの移設を行った。</p> <p>改善点：実際の捕獲状況等に応じて、捕獲方法の見直しを行う。</p>
【捕獲コスト】	<p>評価：積算基準に従い、適切な経費を計上し、事業を発注している。</p> <p>改善点：入札結果も踏まえ、適切なコストとなるよう適宜見直しを行う。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：4班体制で捕獲を実施した。</p> <p>改善点：特になし。</p>
【個体処分】	<p>評価：提出した計画に沿って作業を行った。</p> <p>改善点：特になし。</p>
【環境配慮】	<p>評価：非鉛製銃弾を使用（止め刺しを除く。）、錯誤捕獲情報を収集して環境配慮に努めた。</p> <p>改善点：錯誤捕獲防止対策のわなの導入を検討する。</p>
【安全管理】	<p>評価：適切な安全管理がとられており、緊急時の連絡体制も適切に整備されていた。事故の発生もなかった。</p> <p>改善点：今年度と同様の安全管理体制を継続する。</p>

<p>3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし。</p>
<p>4. 全体評価</p> <p>目標を達成できなかった要因として、捕獲努力量の設定が適切でなかったことが一因であるため、適切な捕獲努力量となるよう見直すとともに、わなの移設方法など、効率的な捕獲方法となるよう見直すことで、改善が期待できる。</p> <p>また、捕獲作業終了後に実施した受託者へのヒアリングで、本捕獲事業のふもとで実施されている市町村による有害鳥獣捕獲事業での捕獲が例年と比べ増えたという声があった。本捕獲事業の実施により、ニホンジカが山林からふもとに追い出され、周辺地域の捕獲数の底上げに寄与している可能性があるため、当該指標による評価の可否も検討を行う。</p>

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	<p>モニタリング項目・方法</p>
<p>特定鳥獣保護・管理計画の目標</p>	<p>○現計画の目標（計画期間：令和4年度～令和8年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推定生息数を1万頭まで減少 ・令和2年度比で、推定生息密度5頭/km²以上のメッシュを3割減少 ・農林業被害の未然防止又は減少 <p>○年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全体で年間6,000頭以上
<p>寄与状況の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第二種特定鳥獣管理計画の生息数の目標達成のため、更なる捕獲強化が必要であり、そのためには、捕獲圧の弱い地域でも捕獲推進が必要である。 ・本事業実施地域は、静岡県との県境付近で、地形は急峻で、アクセスが困難な箇所が多いことから、十分な捕獲等が行われていない。 ・今回捕獲活動を実施した4つの5kmメッシュについて、狩猟や有害鳥獣捕獲による捕獲数が同じであると仮定した場合、本事業による捕獲の割合は約1割であった。 ・引き続き、静岡県と連携して、捕獲圧の弱い県境付近での捕獲を推進することで、ニホンジカの生息数の減少を図る。

三遠地域広域捕獲計画 捕獲等実施区域図

